

参 考 資 料

1	北斗市観光振興プラン市民検討会議	38
(1)	開催経過	38
(2)	委員名簿	38
(3)	北斗市観光振興プラン市民検討会議設置要綱	39
(4)	「北斗市観光振興プラン市民検討会議」における意見	40

1 北斗市観光振興プラン市民検討会議

(1) 開催経過

平成30年11月1日	第1回北斗市観光振興プラン市民検討会議
	・現行北斗市観光振興プランの検証
	・北斗市観光振興プランⅡ（素案）の提示
平成30年12月18日	第2回北斗市観光振興プラン市民検討会議
	・北斗市観光振興プランⅡ（素案）の審議
	・原案の確定
平成31年1月16日	パブリックコメント手続き（～2月14日まで）
平成31年3月20日	第3回北斗市観光振興プラン市民検討会議
	・成案の確定
平成31年3月27日	市長への答申

(2) 委員名簿

木村 健一	公立はこだて未来大学 教授
木村 圭介	北斗市商工会 青年部部長
佐藤 敏彦	一般社団法人北斗市観光協会 理事
関 司	新函館農業協同組合 大野基幹支店営農センター長
金子 久	上磯郡漁業協同組合 貝鮮焼北斗フィッシャリー担当課長代理
勝又 康郎	道南いさりび鉄道(株) 経営企画部専任部長（企画営業）
小倉 哲夫	ホテル・ラ・ジェントプラザ函館北斗 総支配人
谷 まゆ子	谷観光農場（北海道農業士）
柄澤 昌子	北斗市観光ボランティアガイド
塩地 和也	株式会社JTB北海道事業部函館オフィスグループリーダー

(3) 北斗市観光振興プラン市民検討会議設置要綱

北斗市訓令第19号

平成30年7月4日

(設置)

第1条 北斗市観光振興プラン（以下「観光振興プラン」という。）の策定に係る審議を行うため、北斗市観光振興プラン市民検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所管事項)

第2条 検討会議は、次に掲げる事項について、審議を行う。

(1) 観光振興プランの策定に関すること。

(2) その他必要な事項

(組織)

第3条 検討会議は、委員10名で組織する。

2 委員は、各種関係者及び学識経験者を有する者の中から市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、観光振興プラン策定の事業が完了するまでとする。

ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 検討会議に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会議を代表し、会務を総理する。

4 委員長に事故あるとき又は欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討会議は、市長が招集する。

2 委員長は、検討会議の議長となる。

3 検討会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

(庶務)

第7条 検討会議の庶務は、経済部観光課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議に関し必要な事項は市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この訓令は、公布の日から施行する。

(有効期限)

2 この訓令は、平成31年3月31日限り、その効力を失う。

(4)「北斗市観光振興プラン市民検討会議」における意見

○第1回北斗市観光振興プラン市民検討会議（平成30年11月 1日）

- ・見るもの、食べるもの、学べるものが北斗市には多いと実感しているので、情報発信力を強化すべき。
- ・スムーズに移動できる交通手段があれば、周遊の活性化に繋がると考える。
- ・最近の観光動向として、普段入られない場所、普段体験できないものなどを求めている。観光客の嗜好が変わってきている。
- ・訪日外国人旅行者が増えていて、いろいろ観光をご案内したいところだが、詳しい説明ができないでいる。
- ・観光客の入込が低下してきている。どうやって客足を伸ばしていくのか議論している。
- ・はこだてライナーで簡単に函館へ行けるので、北斗にどうやって下りてもらおうか悩んでいる。
- ・北斗に来る目的、何をさせるかを明らかにした方が良く考える。
- ・地域間の交流を行うことで、他の観光地の情報を知り、紹介することができるため、ホスピタリティの向上につながる。今後はこのような市民レベルの動きが求められる。
- ・観光協会が主催したガイド講座では沢山の参加者がいたが、いざガイドをやるとなると数が少ない。
- ・市民やガイドが一体となって、観光をサポートしていく必要がある。ボランティアを増やしていき、観光をサポートしていく必要がある。
- ・資源が点在している北斗市では交通手段がないので、周遊するのが大変難しい。
- ・交通手段がないと観光地があってもオススメできない状況。
- ・春から夏にかけてが観光客のピーク。秋以降も何か取り組みたいと考えているが、なかなか案が出てこない。
- ・関係者が連携して、体験等を通じた修学旅行の誘致を行っている。
- ・北斗市の南北バスのPRが弱い。函館バスの時刻表やホームページにも掲載されていない。
- ・観光パンフなどは自治体で完結してしまう。周辺自治体の情報を含めた広域のパンフも必要だと考える。
- ・スポーツ合宿について、各市町、旅行会社、交通事業者が一体となって営業するべき。新たなスポーツ施設ができた際、ターゲット（チームレベルなど）を絞っていく必要がある。
- ・今後もスポーツ合宿を伸ばしていく必要がある。
- ・地域として観光の受入は素人なので、プロから指導を受けたい。

- ・道南は12月から2月が閑散期。訪日のお客様から雪を見たいという旅行エージェントからのリクエストがある。ただ雪をみるだけではなく、自然体験のプログラム化を願う。

○第2回北斗市観光振興プラン市民検討会議（平成30年12月18日）

- ・情報の流通という点で、情報発信は重要。いさりび鉄道の夜景列車では、SNSなどを通じて飛込みでの参加が多いと聞いている。函館に来てから情報を知るパターンが多いことに驚いている。
- ・歴史という点で、箱館戦争の舞台が北斗市内にも点在していることがあまり知られていない。そういう切り口でのPRは大切。土方歳三に着目した動きを特出してはどうか。
- ・北斗市内には史跡説明板が普及されている。活用してはどうか。
- ・秋冬の体験の充実は重要だと考える。この季節にお客様が来ても、何もないと言われる。例えば、八郎沼で雪像づくり、かまくらづくりなどをしてはどうか。
- ・函館に来て、現地で歩きながら旅行の計画を立てる人が多い。地図ぶらりというアプリの活用も考えられるが、このようなニーズに対応するのが大きな課題。
- ・外国人指差し英会話シートについて、活用できる場面と、活用できない場面がある。接客モードに合わせて作成してもらえれば助かる。
- ・ヘルシーウォーキングで人気がある地域は、地域の人に来る方を歓迎しているところのようだ。まちで歓迎しようという取組が肝心ではないか。
- ・韓国には「オルレ」というものがあり、それも、トレッキング、ハイキングのようなウォークイベント。ヘルシーツーリズムと関連するので、ぜひ検討してみたいか。
- ・ヘルシーツーリズムを展開するにしても、医療や健康増進などしっかりとしたテーマを設定してもらいたいし、北斗市の市民が率先してそのような考えで健康増進しているということが大事。
- ・スポーツ合宿の利用の推移を拝見すると、3月、4月で35%を占めているのに驚き。スポーツ合宿も含めてヘルスツーリズムというのが北斗市にとって有力な観光コンテンツとなりうる。
- ・東京北斗会、子ども観光大使などあるが、北斗市出身者の芸能人を活用してはどうか。
- ・ロケーション誘致で、積極的に制作会社にダイレクトメールなりでセールスしてはどうか。
- ・台湾に「北斗鎮」というところがあるが、文化交流ができないものだろうか。

○パブリックコメント手続き（平成31年 1月16日～2月14日まで）

- ・意見なし

○第3回北斗市観光振興プラン市民検討会議（平成30年 3月20日）

- ・本プランは5年の計画となっているが、絵に描いた餅とならぬよう、成果の検証が必要となってくる。
- ・北斗市への来訪するチャンスを増やしたい。いさりび鉄道のダイヤも活用できると思う。
- ・情報共有という点で、他の団体の意見を聞くことができ大変勉強なる。
- ・「コト」消費として、体験観光は有効と考える。
- ・観光ガイドを増やし、市民も他の地域の方々に情報発信できるよう、取り組んでもらいたい。
- ・北斗市にはこんな素晴らしいガイドがいるんだね、と言われるようもっとガイド養成をしてほしい。
- ・観光客は、北斗市だから北斗市へ行こうではなく、北斗市にはこのようなことが面白いから北斗市へ行こうという考えとなる。お客様の目線に立った観光振興を行っていただきたい。
- ・計画は5年だが、観光のニーズはどんどん進んでいく。時代に応じた対応を願う。
- ・青森も海外への定期便が就航していることから、北海道新幹線で繋がる青森の地域と交流をすすめていただきたい。
- ・特産品開発で地物を使った商品を作っているの、SNS等を通じて発信していきたい。